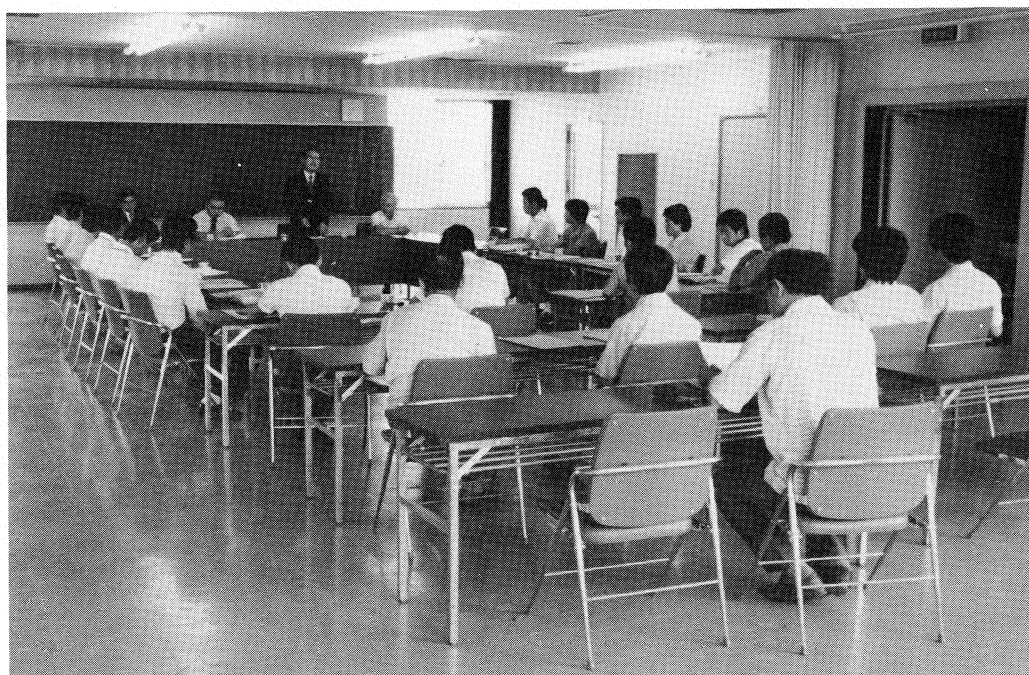


岐阜県の プラスチック

昭和54年10月6日発行

特集・『技術短期講習会』開かれる

第 33 号



テーマ『技術と法規』

2会場に55人が参加

岐阜県プラスチック工業組合は、さる9月6、7日の2日間、県の職業訓練助成事業として『技術短期講習会』を（写真上はその開講式）開いた。テーマは『最近の成形技術と法規の改正』で、第1日は岐阜県工業技術センターの講堂と高分子加工実験室で、第2日目は岐阜産業会館

で開かれ、延べ55人が参加した。

開講に当たって大松理事長は最近の業界の動向にふれ『プラスチック材料は当初、金属や木材の代替材料としてスタートした。しかし、現在では代替材料の域を脱皮し、そればかりか近年開発されたエンジニアリングプラスチックの数々は、金属などそれらの材料に必適している。加工性や耐蝕性などプラスチック材料の長所を考えると、むしろ優れてきたともいえる』などとあいさつした。（2面に関連記事）

岐阜県プラスチック工業組合会報

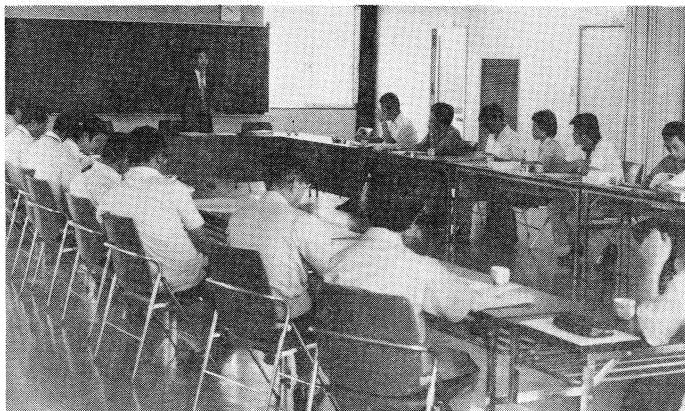
技術は精密成形を学ぶ

2日間にわたった技術短期講習会

法規は品質表示法と食品衛生法

『最近の成形技術と法規の改正』をテーマに開かれた技術短期講習会は、第1日目のテーマが精密成形法と射出プロセスコントロール機能を中心とした『最近の射出成形機の動向』について。

講師は日精樹脂工業・技術サービス課長の高山和利氏で、今回は日精のオリジナルシステムを中心に、より精度のある成形を行なうためには射出圧力や射出スピードなどの対応処理についてディスカッションを交えながら講義を行った。続いて開かれた実習は同センターの高分子加工実験室で行われた。講師は同日精樹脂の技術サービス課主任の南村正昭氏で、今春新しく設置



された新型の日精射出成形機に精密金型を取り付け、実際に成形作業を行いながらそのポイントを学んだ。(写真上は技術講習と実演)

翌日は会場を岐阜産業会館に移し、岐阜プラスチック工業本部長の大松春雄氏から『成形作業の基本について』の講義を受けた。

この講習は技能検定学科試験の受験資格者を対象に組まれたもので、成形作業の常識と基礎

的理論を熱心に聞いた。

ことしのプラスチック技能検定は、実技がさる7月、学科が9月に行われたが、合格率は実技が40%、学科試験は実技試験よりさらに下がってきている。組合ではこんご機会あるごとに成形作業の基本についての講習会を準備しているので、受験資格者に機会を逃がさぬよう呼びかけている。

改正点を詳細説明

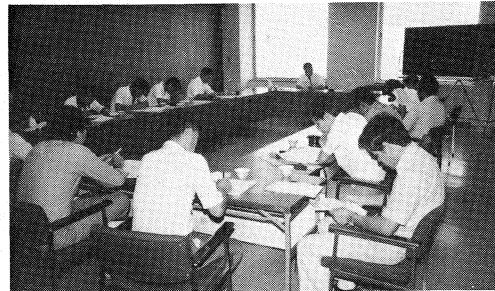
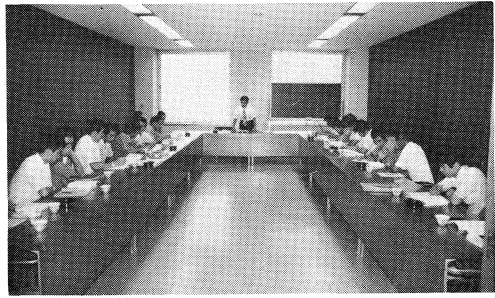
施行前に関心高まる

第2日目、午後の法規改正は『家庭用品品質表示法』と『食品衛生法』の2法の改正について説明。2法とも改正されたのはプラスチックに関連する部分が多く、品質表示法は55年4月1日から、食品衛生法は今年11月28日からそれぞれ施行される。

品質表示法改正についての説明は、岐阜プラスチック工業株式会社社長の下村康夫氏で、とくに改正の重点となった表示規程について詳細な解説があった。この改正によって従来の金型刻印の見直しと修正が必要となっている。旧表示による在庫商品は55年3月末日までに処理し、4月1日以降の施行後は新しい品質表示をすることが義務付けられる。

3 樹脂に厳しい規格…食衛法

厚生省告示の食品衛生法の改正については、岐阜県環境衛生課の細川大二郎氏が担当した。食品衛生法の改正要点は、従来、プラスチック製器具やよび容器包装の安全性が塩化ビニール



上は成形作業の講義、下は品質表示説明会
樹脂のみ対象としていたのを新しくポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンの3樹脂を加え、その製品について厳しい規格基準が設けられた。同時に塩ビ製品の試験法の一部も改正された。

2法とも、関係商品を製造するメーカーにとっては重要なこととあって、参加者は2講師の解説を熱心に聞いた。

◎マツダ車、組合員へ特別販売◎

当工業組合はマツダオート岐阜と特販契約しトラック、ワゴン車の組合員特別販売を実施します。今春、行った乗用車の特別販売が好評だったため続いて実施するもので、前回同様に5台以上まとめれば、一台24-25万円の値引



価格になります。

車種はボンゴボンデのマルチ

ワゴン、マルチバン(写真)ワイドローです。それぞれの価格は一般価格との関係が明記できませんので、組合事務局へ問い合わせして下さい。県プラローンも利用できます。

自動車ローンの貸付利率改定

当工業組合は実施中の『県プラ自動車ローン』の貸付利率を10月1日から6%(アドオン、0.5%アップ)に改定しました。発足当時と比べ金融事情が変り、ローン資金の銀行借入れ利率が上昇したためです。ご理解下さい。

『79発明くふう展』と『県産品展示会』 業界の意欲を誇示

さる10月に『79年 岐阜県発明くふう展』と『岐阜県産品展示会』が開かれ、当工業組合はそれぞれ一コマずつ出品した。

発明くふう展は10月18日から4日間、岐阜市内の岐阜市民センターで開かれた。一般個人、企業、婦人、児童、生徒、教職員、などから約400点の

力作が出品された。当組合は一コマを協賛出品したもので、組合員から提出のあった約30点のプラスチック製品を展示、業界の意欲を誇示した。

見直そう使おう伸ばそう県産品

一方、県産品展示会は『見直そう 使おう伸ばそう 県産品』のテーマで、10月19日から3日間、中津川市のコミュニティーセンター内中津公民館 ホールで開かれた。

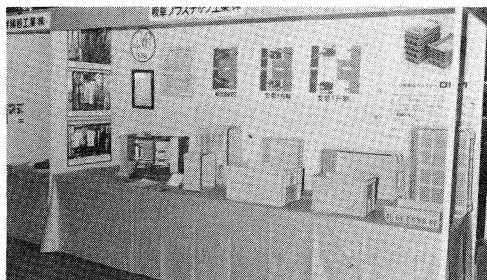
展示内容は個別展示コーナーと総合展コーナーにわかれ、プラスチック業界からは主産業である食品、繊維製品、木製品、紙製品、陶磁器、金属刃物などの製品とともに約20点が出品され、会場を飾った。

名古屋吹上でプラ展開かれる

日刊工業新聞社は10月18日から22日まで、名古屋市千種区の名古屋吹上ホールで『79年プラスチック工業展』を開いた。全国のプ



発明くふう展の一コマを飾った工組の展示コーナー



科学技術庁長官奨励賞を受けた岐阜プラ



県産品展示会でのプラスチック業界の製品

ラスチック関連メーカー商社60社が出品、同時に塗料総合展、暮らしのための省エネルギーと設備展も併催された。

6 地場産業が連携 デザイン振興会を設立

地場産業のデザイン開発を総合的に進めようと、さる10月12日、岐阜県工業技術センターで『岐阜県デザイン振興会』の設立総会が開かれ、発足した。設立に参加したのは岐阜県プラスチックデザイン協会はじめ木工、繊維、陶磁器、紙製品、金属の六つのデザイン関係団体。こんご事務局を岐阜県工業技術センターにおいて、国内外のデザイン情報を収集、年3～4回、ニュースとして会員に流すとともに、製品の企画とデザイン開発に関する研究事業を進める。

副会長に大松理事長選ばれる

設立総会には各業界代表ら約60人が出席、プラスチック業界からは田中、武藤副理事長ら工業組合およびデザイン協会役員10人が参加した。なお、総会席上で役員選挙が行われ、会



長は北村繁氏（木工デザイン協会会長）また、副会長は他の5団体の会長で、プラスチック業界からは大松幸栄氏が選ばれた。

このほかプラスチック業界からは武藤昭三氏が理事、教育情報委員に納土栄一郎氏、開発推進委員には奥村勝氏が選ばれた。

◎ジャンプラスの開催要項決る◎

来年大阪で開かれるジャンプラス（日本プラスチック・ゴム見本市）の開催要項が決まった。期間は11月1日（土）から6日までの6日間、会場は大阪市港区国際見本市会場。開催にあたっては自動車、電機などユーザー業界との交流を深めた見本市をめざすという。

誤解しがちな『安全』問題 その二『自主管理』

①『労働者の出席』とその誤解

職場の安全委員会に労働者が出席する意味を『労使対決』の機会到来であると思っている人がいますが、これは誤解です。安全委員会は安全問題について団体交渉する場ではありません。安全問題を職場で取り組む原則は、労使協力して納得すくめで進めることです。

②『議題』と取り組み方

安全水準を高めるのに、経営者側では金がかかるという点があり、労働者側では『ルール』を守らねばならぬという強制を受ける面があります。いやな面を双方が押し出し、対立的にな

りがちです。そこで両者が納得して安全問題を進めるために、次の議題を選んで討議することが有効です。

①安全に関する規定の作成と従来の規定の問題点を討議する。

②安全教育の実施計画について、労使双方の見解を出し合う。

③事業場へ入る新規の設備・機器などの危険性について討議する。

④災害事例の研究を双方で行う。

これらの議題を討議して行く途中で、労働者側は職場体験からきた危険防止の見解を経営者に述べ、経営者側の理解を深めれば双方納得の出発点が得られます。（AIU顧問・安全コンサルタント 名越助廣）

9年ぶりに総合展開く

福井県
工業組

花やかに31社参加

福井県プラスチック工業組合（脇坂大三理事長、組合員64社）は、8月31日から4日間福井市内で『79年福井総合プラスチック展』を開いた。展示会は福井県のプラスチック業界が9年ぶりに開いた見本市で、フクビ化学工業、協成化学工業、FRP工業、サカセ化学、海道



工業など31社が参加した。

展示商品は組立水そう、道路保安用品、ビジネス用品、住宅建材、異形押出品、電子部品、廃プラ成形品

など幅広く、ユニークな商品がめだち、一般参観者もまじり今期中はよく賑わった。

なお、福井県のプラスチック産業は40年以降から急速に発展、いまでは年間総生産額が約360億円と、従来の伝統産業である繊維、眼鏡わく、漆器などと並ぶ有力な地場産業として定着しつつあるが、業種も射出、中空、押出、圧縮、再生、のほかFRP加工を含めるとほとんどの生産分野に及んでいる。

上期のプラ生産大幅に伸びる

54年上期（1-6月）のプラスチック材料および製品の生産実績がまとまった。

プラスチック材料の上期生産量は393万トンを、前年同期比26.8%の増加。とくに汎用プラスチックの増加が著しく、なかでもポリプロピレン46.7%増、ポリエチレン31%増、塩化ビニル34.0%増、ポリスチレン25.2%増であった。

製品は生産量200万トンで前期比19%の増加。各品目とも平均して伸び、板、機械器具部品、容器、建材、発泡製品がめだった。



秋元産業株式会社

本社 東京都中央区八重洲5の7
名古屋営業所 名古屋市中村区米屋町2(埼玉ビル9F)
TEL <052> 582-5071

◎米国のエンブラは10年で3倍◎

デュポン(米)はアメリカ国内のエンジニアリングメタルおよびエンジニアリングプラスチックの市場予測調査を行った。

それによると金属の需要と供給は向う10年間は均衡を保ち、プラスチック材料の使用は3倍以上の増加が見込まれている。エンブラの需要は1980年代半ばに約73万トンに達する。これは1975年実績の3倍以上の水準にあたる。エンブラは金属材料市場を侵食し続け、もはやたんなる金属の代替品とか代用品とはみられていないことがわかる。

◎超音波応用したブラ成形技術◎

超音波を応用したプラスチック成形技術が、東大工学部前田研究室で開発された。

これまで広く採用されている射出、注型、ブロー成形などは、高温流動状のプラスチックを原料とするため、1度はペレットにする必要がある。超音波成形技術はこの問題を一気に解決したもので、原理は超音波によって生じる微振動摩擦熱を溶着機の中で発生させ、原料粉末を直接製品化するというシステムである。

◎高耐熱性のBT樹脂を量産へ◎

三菱瓦斯化学は電子、重電、自動車向け高耐

熱性樹脂として注目されているBT(ビスマレイミド・トリアジン)樹脂の量産工場を55年春までに建設する方針である。

BT樹脂の主原料で独占商品であるバイエル(西ドイツ)の「トリアジン樹脂」のモノマーおよびポリマー製造、応用技術、販売に関する独占的ライセンスを取得し、BT樹脂の原料からの一貫生産が可能になったためである。

◎簡易発泡ポリウレタンが登場◎

三井日曹ウレタンは、1液型簡易発泡ポリウレタンフォーム『ハイブレン[®]フォーム』を市販した。ポリウレタンを耐圧小型ポンベに充填し、フロンガスの圧力で吐出し、発泡するもの。各種の建築物、自動車、その他の空隙充填、断熱、防音、接着等に利用できる。

◎耐燃用樹脂『ノンアス』発売◎

松下電工は、昨年、アスベストゼロの耐燃用フェノール樹脂成形材料『CY9410、CY9415』を発表したが、このほどUL規格81年規制に合格したのを機会に「ノンアス」の新商品名で積極的に販売することになった。

用途は耐熱電気部品(端子板、リレー、スイッチ、コイルボビン)など耐熱性の必要な家電器具など用途拡大に期待がかけられる。

TOSHIBA 東芝機械株式会社

本社 東京都中央区銀座4丁目2-11
 名古屋営業所 名古屋市中村区名駅4丁目7番23号
 化工機課 TEL <052> 561-8341

デザイナー

岐阜県プラスチックデザイン協会

クラスター分析

この手法は、日本で五指に入るある大手の靴屋さん（従業員400名）が多品種少量生産のために現在も行っているデザインの企画管理の方法である。

この靴屋さんは紳士靴を中心に生産し、その伝統も古く、技術のレベルも高いものを持っている。しかし、14のブランドと200近いデザインを持ち（色別を加えれば数はさらに多くなる）年2回（春夏用、秋冬用）の商品構成、デザインの見直しを、わずか5、6名で行うのはたいへんなことである。

そのため、自社製品の靴がどのような商品構成を持っているのか、そしてどのような靴群の利益が大きいのか、またなくして良い製品、開発の可能性がある分野などが一目で見られる表が必要になる。そこで活用されているのがこのクラスター分析である。

クラスの分け方については、いろんな角度の見方ができるが、その製品の購買動機として重要と思われる要因系を2つ取り上げるのが最も

適格である。この企業では、靴がファッションと非常に関係があるとされることから、用途別、ライフスタイル別によって構成している。

	無関心 無頓着派	体制 順応派	都会的 洗練派	自己 顕示派	成長 途上派
リゾート					
カジュアル					
タウン					
フォーマル					

この表の中に、200以上の製品のクラス分けを行い品番を記入し、その分布状況から、今後の方向を考えて行くのである。

もちろんこの表だけで、デザインの改善、企画を行うのではなく、価格別、ブランド別、素材別等の分布図と重ね、一つ一つの製品の利益貢献度を確認し、常に適格なコントロールをしていくわけである。

このような方法は、何も多品種の製品が自社になくても、たとえば、バターケースを開発しようと思えば、他社製品を集め、クラスター分析することにより、どのようなバターケースを企画すべきなのか、イメージは自然に定まっていくように思われる。

三菱化成のエンジニアリング プラスチックス

ナイロン樹脂

NOVAMID

ポリカーボネート樹脂

NOVAREX®

PBT樹脂

NOVADUR

中低圧ポリエチレン **NOVATEC** 高圧ポリエチレン **NOVATEC-L**



三菱化成工業株式会社

本社：東京都千代田区丸の内2-5-2・三菱ビル
電話 03(283)6111(大代表) (〒100)

続・プラスチックと私

田中 弘一



私がナイロンの再生を思いついたのは、接着剤の企業化が軌道に乗った昭和27年ごろだった。そのころナイロンは全部米国や西独

からの輸入品で、成形用樹脂はペレットとして、繊維用はモノマーあるいはラクタムの形で輸入され、現在、日本のナイロンメーカー最大手、東レといえども当時は試作段階であった。

ナイロン再生のアイデアは、樹脂の特性である『自己潤活性』を持っていることを知ったからで、もし、ナイロン樹脂が安価に手に入るようになればエンジニアリングプラスチックとして注目されるだろうと思った。このころナイロンのバージンはキロ900円から1,000円と、当時、出回り始めた塩ビの約3~4倍という高価格であった。処理に困るナイロン廃棄物を原料に貴重な資源を再生できれば工業部品として新しい用途が広がると考えた。

ところが、それまで業界では『ナイロンの再生はできない。再生してもエンジニアリングプラスチックとして使用できない』と喧伝されていた。私は、世間の喧伝など意に解せず、本業である接着剤販売の余暇を利用して種々の再生を試みた。第一の難関は、ある程度まとまった再生用原料の入手で、このころのナイロンは貴重品であるため必要量を集めるのに骨が折れた。

昭和28年に入って、米国からナイロンの古靴下が織物用原料として輸入されていることを

知り、交渉の結果、まとめて手に入れることができた。この古靴下の原料はナイロン66。再生方法はいろいろ考えたが、最後にトランスファー方式を試み、再生不可能といわれたナイロン再生に成功した。私はいまも、わが国はもとより世界最初のナイロン再生であったと自負している。

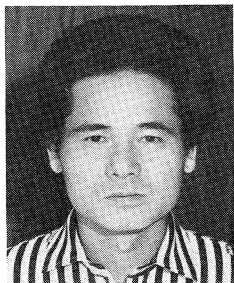
昭和35年ごろまでの数年間は、この再生を企業化するということが、古靴下に限らずいろんな廃棄物を原料に企業化を試みた。実際には33年にナイロン6の連続再生に成功、ペレット生産に乗り出していた。37年7月には、東レのプラスチック研究所へ試験依頼した結果『戸車などの成形用樹脂として十分使用可能』と判定されたので、『ナカロン6』の商品名を付けて市販開始した。再生樹脂はバージンの半値以下、キロ400円でも十分に採算が合った。

再生ナイロンで工業部品を試作したのは、再生実験に成功した昭和28年。最初はポンプなど機器用のパッキングを各種つくった。再生ナイロンによる製品化第1号である。それくらいナイロンの特性を活用していろいろつくったが、その副産物として『吸着力を備えた合成樹脂座金』『袋ナット』『建築用回り止め付き埋め込みナット』『コンクリート打設用幕板の固定装置の木コン』『同付属連結ボルト』『管またはケーブル等における系統または回路を識別する表示体』など6件にのぼる工業所有権を得た。

ここでいまも残念に思うことは、東レの研究所へ試験依頼に出した戸車のアイデアを、ある商社に話したことから盗用され、市販および工業所有権獲得に先を越されてしまったことである。しかし私は、ナイロン再生を通じて、中小企業こそ知識集約化とアイデアを生かすことの大切さを知った。(田中化学工業所代表)

30種の日用品を生産販売

服部 樹脂



服部 昭元代表

組合員の工場訪問、今回は山県郡高富町の有限会社服部樹脂（資本金650万円、従業員9人）を訪ねた。工場は岐阜から高富街道を北進した町の北部、赤尾地内の丘陵地帯。

成形工場の建物は、48年のオイルショック時に一年がかりで建てたという。広さは660㎡もあり、現在の施設は川口鉄工の10オンス・インジェクションが3台並んでいる。

工場とは別に、製品倉庫があり、梱包され、出荷を待つ約30種の日用雑貨品の数々が保管されている。

自社ブランド第1号は湯おけ

創業は昭和42年1月。家族ぐるみでやってきた高周波マシンによるビニール加工に見切りをつけ、5オンスのインジェクションを買ったのが企業の始まり。当初はやはり下請けで、ポリキャップや小物の食卓用品を生産した。しかし、5年ほど経過した47年ごろになって、服部さんは考えた。

それは『下請けでは利益率に伸びがなく、経営に限界がある。いくら施設に金をかけても、経営に妙味を發揮することができない。そればかりか従業員に不安を与える結果になるので、何より会社にゆとりが欲しかった。こうした悪要因を排除するには下請けから脱皮することが先決で、思い切って自社ブランドによる商品を

生産、販売を手がけてきた』という。

自社ブランド第1号は『湯おけ』。続いてボール、洗いおけ、洗面器、屑入れ、ハンガーなど。いままで生産した日用雑貨品は30種類のものだった。ヒット商品や大量受注品は社内の施設では間に合わないので、岐阜や各務原の工賃メーカーに金型を支給して加工、納品しているのが現況である。

小回り効かし将来に不安なし

代表の服部さんは、36歳の若さ。思い切って下請專業から自社ブランドの商品生産、さらに販売へと進んで、売り上げ利益は増えたが、その反面、金型や原材料、さらに在庫手当てなどと相当の資金が必要で、経営の労苦も増えたという。幸わい、服部さんの営業センスが効を



奏して軌道に乗り、前期も利益を計上し、社内留保に回わせたところ。

悩みは『急上昇した原料価格。その都度、製品価格へ転嫁してきたが、影響は大きく表われ、売り上げはこのところ急減している』と話す。最後は『過去の経験から、小企業には小企業なりの小回りができ、将来に不安は少しも感じない』と明るい見通しで話を結んだ。（写真は服部樹脂の成形工場）



□海外視察旅行ご案内□

当工組は創立10周年記念行事の一環として『アジア・ゴムプラスチック見本市視察旅行』を計画しております。すでに予定通りの希望者数に達しておりますので、近く締め切りたいと思います。会員の方で、まだ参加ご希望される方があれば急いでご連絡下さい。同見本市は、来年5月26日から5日間、シンガポールの世界貿易センター3号館で開かれるプラスチックとゴムの総合国際見本市です。会場規模約5,000平方メートルのうち日本ブースは約900平方メートルが予定されています。視察旅行はこの見本市開催に合わせたもので、5月25日から5泊6日間ぐらいの予定(費用約20万円)で計画しています。

□生保、損保の代理店事業にご協力を□

当工組事務局は大同(生保)とAIU(損保)保険の代理店として各種の保険を扱っていますので、ご利用下さい。

生保は傷害、生命、グループ、経営者大型保険などです。料率や割引など内容的には他社の保険と同様ですが、万一の場合は迅速かつ適切な処置が行なえますので、結果的には有利かと

思います。

損保は自動車保険はじめ会社、工場、住宅にいたる火災、事故などの災害に備えてのもので、とくに自動車保険は他社から切り換えても、割引率など特典はそのまま受け付けられ、しかも、月払いの特典が加わりましたので、特に従業員の方には給料から天引することができ、負担が楽になります。電話下されば説明にあがります。

□会報の原稿募集について□ 会報を充実させるため、組合員の皆様から『ずいひつ』『工場訪問』のほか紹介記事を募集しています。また、ご意見をお聞かせ下さい。

岐阜県のプラスチック

1979 33号

昭和54年10月5日印刷

昭和54年10月6日発行

発行 岐阜市六条南2丁目11番1号
(岐阜産業会館内)

電話(0582) 72-7173

岐阜県プラスチック工業組合

発行責任者 大松 幸栄

編集 岐阜市大黒町3丁目5番地

電話(0582) 47-7281

中部パブリシティセンター

出光の石油化学製品



出光石油化学株式会社

東京都千代田区丸の内3-1-1(国際ビル) 〒100 ☎ 03-213-3111

名古屋営業所 名古屋市中区錦1-17-13(名典ビル) 〒460 ☎ 052-231-8611

◎取扱品目

ポリスチレン

高圧ポリエチレン

中低圧ポリエチレン

ポリプロピレン

ABS樹脂

不飽和ポリエステル

カルブ®

ポリカーボネート



あ明日た葉ば

今日切り取っても明日は再生しているとの意から、明日葉と呼ばれる。セリ科の大形多年草。わが国暖地の海浜に生じ、葉は大形の羽状複葉、ウドに似て光沢があり、淡緑色。非常に強壯で発育が速い。葉と茎は食用となる。

純国産無公害エネルギー“天然ガス”を原料に求め、モノマーからポリマーまでのメタクリル一貫生産メーカーとして、世界の五指に数えられる協和ガス化学工業。用途に合わせた高品質素材を安定供給するため“天然ガス”を大切に使っていきたい。

メタクリル樹脂・注型板

パラグラス[®]

メタクリル樹脂・押出板

コモグラス

メタクリル樹脂・成形材料

パラペット[®]



協和ガス化学工業株式会社

本社 / 〒103 東京都中央区日本橋3-8-2 新日本橋ビル ☎(03)277 3174
 大阪事務所 ☎(06)345 3901 / 名古屋営業所 ☎(052)951 6396
 福岡営業所 ☎(092)711 1530 / 仙台営業所 ☎(0222)66 1525



生きてる素材。
 三菱レイヨンのプラスチック

メタクリル樹脂 / 板状品

アクリライト[®]

メタクリル樹脂 / 射出成形材料

アクリペット[®]

ABS樹脂

ダイヤペット[®] **ABS**

三菱レイヨン

東京(272)4321 / 大阪(202)2241 / 名古屋(561)6211

染料 }
工業薬品 } 販売
合成樹脂 }

山田化成株式会社

取締役社長 山田正水

本社 〒101 東京都千代田区内神田2丁目8番4号
TEL (03) 256-7861(代)
名古屋出張所 〒460 名古屋市中区丸の内3丁目13番18号(サワニビル)
TEL (052) 961-6591(代)

UL・94-V0 認定材料

自己消火性樹脂

JSR NF94
JSR NC100

日本合成ゴム株式会社 本社/東京都中央区築地2-11-24 TEL.(03)541-4111・名古屋支店/TEL.(052)571-1231



ニーズに**適確に**
こたえることで
未来の扉をひらきます

産業や生活のあらゆる分野で、便利さや快適さを生みだしているプラスチック。このすぐれた特性をコントロールして、建築のためによりよく活用しなければなりません。信越ポリマーはプラスチックを主な素材として、各種の製品を多角的に開発、生産、販売しています。一方、これらの製造や流通のプロセスにあたって、安全や環境の保全にも十分配慮し、時代と社会のニーズにこたえる新しい価値づくりを進めています。

新しい素材を価値あるものに

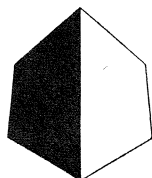
 **信越ポリマー**

名古屋支店 名古屋市中村区名駅4丁目27番23号 (新名古屋ビル)

信越P.V.C.

塩ビは信越……と評価されている理由

- 信越化学は系列の日信化学と合わせ、量・質ともにトップメーカーです。原料から一貫生産を行ない、常に新タイプの開発にとりくんでいます。応用面の研究も充実しています。
- グループの一翼である信越ポリマーを通じて需要家のニーズを品質に生かします。
- 工場の1つに、130M³の大型重合器を備えコンピューター操作による最新鋭工場を有しています。



Shinetsu

信越化学

本社 東京都千代田区大手町2-6-1 電話(03)242-1211(大代表)
名古屋支店 名古屋市中村区名駅4丁目27番23号 (新名古屋ビル)
電話代表 581-6511

日精はお応えします。

コストダウン・品質の向上・省資源の成形に…

コストダウン・品質の向上・省資源がますます要求される今日。より高度な技術力、柔軟な開発姿勢で対処していかなければなりません。日精は豊かな技術力と実績とによって、モルダのあらゆるご要望にお応えしています。付加価値の高い成形は、日精の成形機こそが、お役に立つことをお約束します。

NISSEI
P

1歩進んだ射出成形機をおとどける
日精樹脂工業株式会社

本社・工場 長野県坂城町 ☎(02688)2-3000(大代) 〒389-06 名古屋営業所 ☎(052)732-0261(代)
岐阜出張所 岐阜市西部4962-1(西ビル) ☎(0582)72-5952

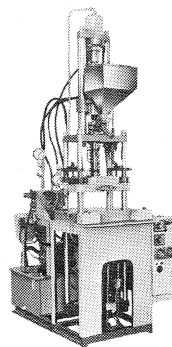
さんじょうの 射出成形機!!

精密工業部品、インサート成形に特に適した機械と定評を頂いております。

射出量5グラム(3/16オンス)より600グラム(20オンス)までの各機種を製作いたしておりますので、用途に合せてご用命下さい。

— 営業品目 —

- 熱可塑性樹脂及び熱硬化性樹脂、ゴム用射出成形機
- ロストワックス用ワックス成形機、ワックス熔融装置、保温装置
- 液状原料用射出成形機、注入機、混合脱泡機
- セラミック用射出成形機
- 当社射出成形機用金型
- その他関連装置



●カタログご希望の方は紙名ご記入の上お申込み下さい。

— 成形機・金型・関連装置を社内一貫生産している専門メーカー —

株式会社 山城精機製作所

本社	東京都板橋区弥生町32番地	TEL(03) 972-0561(代)
業務部・工場	埼玉県川口市中青木2丁目18-21	TEL(0482) 51-6156(代)
名古屋営業所	名古屋市北区楠町味鋤政所28番地	TEL(052) 901-5861番
大阪営業所	TEL(06) 443-3771(代)	八王子出張所 TEL(0426) 51-7144番
九州営業所	TEL(092) 571-2740番	小倉出張所 TEL(093) 471-1079番
前橋営業所	TEL(0272) 52-0733番	城南出張所 TEL(03) 776-2254番
広島出張所	TEL(0822) 32-2785番	沼津出張所 TEL(0559) 22-9610番



リスのプラスチック



今、新しい テーブルウェアの たび だち 出発。

ノーブル(英語)とは“高貴”という意味、その名にふさわしいテーブルウェアとして、リスの一貫したデザインポリシーから生まれたメタクリル樹脂の最高級品です。

RLSU
Noble
ノーブル

岐阜プラスチック工業株式会社

本社 岐阜市神田町9丁目25(大岐阜ビル6F) TEL<0582>65-2233(代)
稲羽工場 岐阜県各務原市前渡東町3620 TEL<0583>86-9311(代)
支店 東京・大阪・名古屋・福岡 営業所 高松・広島・仙台・札幌・宇都宮